
MOON-4 夜叉 3 < 1 8 >

みづき海斗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

MOON - 4 夜叉 3 < 1 8 >

【Nコード】

N0514N

【作者名】

みづき海斗

【あらすじ】

新宿へ戻った裕希を迎えたのは桜に記憶を奪われた秀だった。裕希は自分の力で秀を取り戻せないか考える。そして、帝王の『権利保持者』である桜の奇怪な動き――

『夜叉』第3部の始まりです。

1・君がいない - 1 (前書き)

今日は「ホラー2010」解禁日ですね!!

1・君がいない - 1

“君の中で時を刻む Rhism

いつか消える日まで響き合うように

愛しさずっと零れおちないで

輝いて欲しい・・・・・・

闇の中で彷徨う陽炎“

裕希は走った。

（今、ここで秀さんに捕まるわけにはいかない！）

成城の自宅へ戻れば、市子にも危害が及ぶかもしれない。そして

学校へ戻っても・・・・・・

彼は誰時^{かわたれ}を迎えた新宿の街は、仕事から解放された人々で賑わっている。

（紛れていれば安全？）

かつてバイトをしていたALTA沿いのMACで時間を潰す。

「どうしたの？裕希くん。」

香が最初に気付いた。「何かいいバイト先でも見つかったの？」

そう問いかける彼女に、

「そんな事ないよ。」

ポテトをつまみながらそう答える。

バイト先にはもう前に、和人が、

『昼も一緒にいた方がいい。』

と、言うてからずっとバイトを休んでいた。

心配そうな顔の香に、

「大丈夫だよ、また帰って来るから。」

笑顔で答える。

（今日は父さんがやってるホテルに泊まるか・・・・・・）
桜は新宿の中や外を自由に出入りできる。

（本当に吸血鬼なのかな？あの2人の事は俺にもよく判らないけど。）

あの日、裕希は朝子と車で『あの場所』へ行き、そして和人が桜に『香木』で倒されたのを見た。

いくら帝王でも桜の樹で作った『香木』をその身に受けたらどうなるかもよくは判らない・・・あの日はそのままマンションへ戻り、朝子の言う通り成城の自宅へ帰る事になった。それが今では、大京町のマンションさえ売りに出されてるらしい。

“分かち合うもの何もないけど

気持ちが溢れて きつとそれでいいよね

たとえ間違っても

眩しい光にも負けぬように

力強くその羽根を打て Get On The Rhism“

（もつと強くならんくちゃ。）

裕希は思った。（朝子さんや和人を守って秀さんを桜の手中から取り戻すために。）

少年は、大人へと成長していた。

夜、MACを後にすると近くにある父がオーナーを務めるホテルに行こうとした。

カードだけは持って来ていた。

（桜はきつと俺を襲って来るに違いない。でも、何故、桜は『帝王』にならない？）

疑問だけが残った。

和人を倒せば、その『権利保持者』の桜が帝王になってもおかしくない。

しかし、『闇』は微妙なバランスを保っている。

まるで、和人の一族と九桜の一族が対峙するように。

そして、秀。

新宿御苑近くの一流ホテルのロビーに入り裕希は考える。

（桜は秀さんを欲しがっていた。だから、和人を倒そうとした。）

ロビーで受け付けを待ちながら、

（『帝王』になる気持ちもないみたいだ――あの桜って子。例えば、子供がおもちやを強請る様な感じだった。）

「裕希様。」

ロビーから声がかかった。「お部屋をご用意致しました」

黒いスーツに身を包んだ男性だった。

「ありがとうございます。」

裕希はソファから立ち上がり、GOLD CARDを差し出す。

「父さんにはちよつと内緒にしておいてくれる？」

裕希が篠原家の者だという事はカウンターで手続きをした時から判っていた。

「承知しました。」

男性はそう言い、銀色の鍵を手渡した。

「12階でございます。」

「ごめんね、予約もなしに。」

「いえ、部屋はいつも篠原様の為にキープしてありますから。」

「うん、判った。」

裕希は鍵を握り、「ちよつと長く滞在するかもしれないから。」

「はい。」

「後は何もいらないよ、眠ればいいだけだし。」

「かしこまりました。」

男性は立ち去る裕希に深々と頭を下げた。

その少年の背中へ、

「どうぞ、良い夜を。」

紅の両眼が、そう告げた。

1・君がいない - 1 (後書き)

今度は FTISLAND のCDを買ってしまった。。
10/2のMU、緊縮(><)。。。。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0514n/>

MOON-4 夜叉 3 < 1 8 >

2010年10月17日06時58分発行